

ハンドボールとサッカーの強化システム・実業団リーグの比較 ～歴史的背景に着目して～ A comparative study of handball and soccer ～history, youth promotion and the league～

1K09B069-9

指導教員 主査 石井 昌幸先生

熊谷 昂

副査 倉石 平先生

【はじめに】

日本においてサッカーはポピュラーなスポーツであり、世界のサッカー強豪国に対しても引けをとらない試合ができるほど競技力が高くなっている。それに対して日本におけるハンドボールは、2008年に北京オリンピックアジア予選での「中東の笛」問題で大きな話題となったが、結局オリンピックに出場することができなかった。2012年のロンドンオリンピックにも出場することができていない。このことから、日本のハンドボールの競技力は世界的にみると低いと言えるだろう。本研究では、日本のハンドボールの歴史、ハンドボールで国内トップリーグである「日本ハンドボールリーグ」、日本独自の育成・強化システムである「NTS」について調査した。そしてそれらをサッカーにおける歴史、実業団リーグ、育成・強化システムと比較し、今後の日本のハンドボールの普及・発展、競技力向上のための課題を明らかにする。

【第一章】

第一章では、日本のハンドボールにおける歴史、実業団リーグである「日本ハンドボールリーグ」、育成・強化システムである「NTS」について述べる。歴史においては、ハンドボールには当初7人制の11人制の二種類があり、日本では11人制を主に採用していた。しかし、世界的には7人制が徐々に台頭し、日本でも1957年に女子が、1963年に男子が7人制に統一した。この出来事はハンドボール特有のものだと考えられる。「日本ハンドボールリーグ」においては、1976年の第1回大会に参加したチームと現在の第37回大会に参加したチームを見比べてみると、特に女子においてチームの入れ替わりが激しいことが分かった。また、歴史が長いチームが多いということが特徴であり、リーグに参加しているチーム数も大きな変動が見られないということが分かった。「NTS」においては、まだスタートして12年目であり、これからも継続していくことが重要だと考えられる。

【第二章】

第二章では、日本のサッカーにおける歴史、実業団リーグ、育成・強化システムについて述べる。サッカーの歴史においては、1870年代という早い段階で日本に伝来し、1900年代には全国に普及しているということが特徴として挙げられる。1965年から1992年まで続いたサッカーの実業団リーグである「日本サッカーリーグ」においては、観客動員力があまりなく、競技力も現在の「Jリーグ」と比べると低かったことが明らかとなった。サッカーの育成・強化システムである「トレセン制度」においては、1980年からスタートしており、歴史が長いことが分かった。また、都道府県単位や市町村単位でトレーニングを行っていることが特徴的であった。

【第三章】

第三章では、第一章、第二章で述べてきたハンドボールとサッカーの歴史、実業団リーグ、育成・強化システムをそれぞれ比較する。歴史においては、ハンドボールが日本に伝わったのはサッカーと比べると約50年も遅く、その間にサッカーは全国へ普及していた。また、ハンドボールには11人制と7人制があり、これが1963年に7人制に統一されたことで、指導者が不足したということも考えられる。1964年の東京オリンピックでは、ハンドボールはオリンピックの正式種目から外され、日本が世界大会に出場できる数少ない機会がなくなってしまった。それに対してサッカーでは、東京オリンピックで優勝候補だったアルゼンチンを破ってベスト8に残るという快挙を遂げ、サッカーの普及・発展に大きく貢献した。

実業団リーグにおいては、「日本ハンドボールリーグ」と「日本サッカーリーグ」では、試合会場の収容人数と比した観客数でみると大きな差はなかった。しかし、それぞれのリーグに参加しているチーム数を比較してみると大きな差があり、このチーム数の差は普及や競技力向上においても差を生むと考えられる。

育成・強化システムにおいては、「NTS」と「トレセン制度」それぞれがスタートしてからのU-19日本代表のアジア大会の結果を比較した。ここから、「トレセン制度」では結果が出るまでは10数年かかっており、「NTS」においてもこれからも継続していくことが必要だということが分かった。また、「トレセン制度」のように都道府県単位、市町村単位からトレーニングを行うと、最先端の技術や知識がより広い範囲に伝わるため、「NTS」でも採用した方が良いと考える。

【おわりに】

現在、2020年のオリンピックを東京に招致する活動があり、これが実現すれば、ハンドボール日本代表は1988年以来のオリンピック出場となり、ハンドボールを日本で普及する大きなチャンスになる。ここで日本代表が活躍できるかが普及のカギであり、そのためにも「日本ハンドボールリーグ」と「NTS」の発展が不可欠だろう。